

平成21年度研究開発実施報告書（要約）**1 研究開発課題**

小学校における「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の内容・方法の研究開発

2 研究の概要

本校で定義する「公共性」とは、「子ども達が友だちと自分の違いを排除せずに、理解し考える力を発揮すること、そして教師達自身が民主主義に基づく社会生活を創る資質・能力を探究し育てる視点をもつこと」である。その目標に向かって授業（学習）を改善する。本校の「シティズンシップ教育」では学習における「公共性リテラシー」を探究する。「公共性リテラシー」は全学習分野において育成する。教育課程は「学習分野」と「創造活動」で編成し、当開発では「学習分野」研究に焦点を当てる。教育課程の運用には協力学年担任制と学習分野担任制を併用する。「公共性リテラシー」を育む教育課程の内容は3年次に『学習における「公共性」育成プラン』にまとめる。また、校内研究を教師の学びとして有意義で持続可能なものにするために、研究推進のあり方を改善し提案する。

3 研究の目的と仮説**（1）研究仮説****①どのような手段を考えているのか****ア 協力学年担任制**

個々の教師が他の教師と協力して子どもを育てるという考え方から「協力学年担任制」を採用する。

イ 学習分野担任制

全ての教科（学習分野）で「公共性」を育むことをねらい、子どもの実態から教育内容や方法の研究を具体的に進めるために、「学習分野担任制」を採用する。「協力学年担任制」で安定の基盤をつくった上に教師の専門性を生かして子どもを育てるという考え方である。

ウ 各学習分野で『学習における「公共性」育成プラン』をつくる

全ての学習分野において「公共性」に関する教育内容や適切な方法を抽出し、本校オリジナルの『学習における「公共性」育成プラン』を作成する。学習分野で育む「公共性リテラシー」を明らかにする。

エ 「公共性」を高める校内研究体制を構築する

【授業者が学習指導案を作成する⇒みんなで授業研究を行う⇒自分自身の振り返りを行う⇒実践記録を書く⇒グループで省察する⇒自分の授業改善に活かす】という自己と他者の対話的研究サイクルを確立する。

②どのような成果を期待しているのか

ア 協力学年担任制

複数の学年担任教師が一人一人の子どもに学習指導と生活指導に関わることによって、子ども側は多面的な見方や価値観にふれることができ、よりどころを得て精神的な安定感につながる。様々な教師の人間性や指導法に触れることができ、異なる価値観や意見に出会い、葛藤をもって考える機会が増えるので「公共性」を育むことへ促進的に働く。

教師の側からすれば、「公共性」の育み方を異分野の視点で考えるチャンスが増え、すでに教師自身が経験的に把握している発達的な視点に多様性が加味されて、さらに実践を工夫することができる。

イ 学習分野担任制

教師個々の専門性や特徴を生かすことができるので、学習内容の研究が進む。授業方法に工夫を加えやすくなり、子ども同士が関わりあいながら創造的、専門的に学ぶ機会が増える。また、各学習分野研究が活発になり、「公共性リテラシー」についての議論が進む。

ウ 各学習分野で『学習における「公共性」育成プラン』をつくる

「公共性リテラシー」を6年間の教育課程全体の視野から整理することができるので、当該学習分野で計画的かつ省察を加えながらの教育を行うことができる。

エ 「公共性」を高める校内研究体制を構築する

教師個人では気づけなかった子ども同士の関係の変化や子どもの学びの見取り方を知ることができる。「公共性」や「公共性リテラシー」に関する考え方や授業方法について、他の教師の考えを受けとめて共感的・批判的に試行錯誤することができる。そのことによって、自らの授業実践に工夫を加えようとする意欲が高まる。

(2) 教育課程の特例

教育課程を、「学習分野」(ことば, 市民, 算数, 自然, 音楽, アート, 生活文化, からだ)と「創造活動」で編成する。

4 研究内容

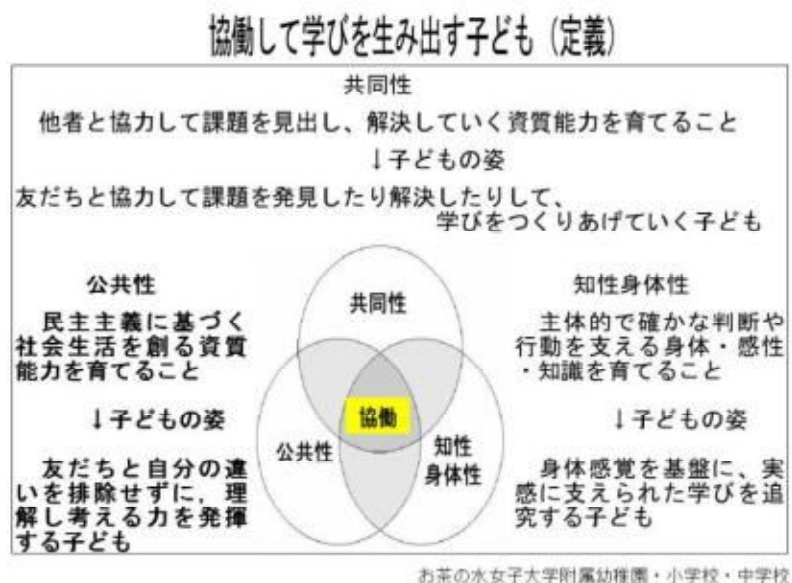
(1) 教育課程の内容

① 「公共性」を創る

前回の研究開発(H17~H19)で、右図にあるとおり、協働して学びを生み出す子どもを育てる3つの視点のひとつに「公共性」があることが実践的に確認された。

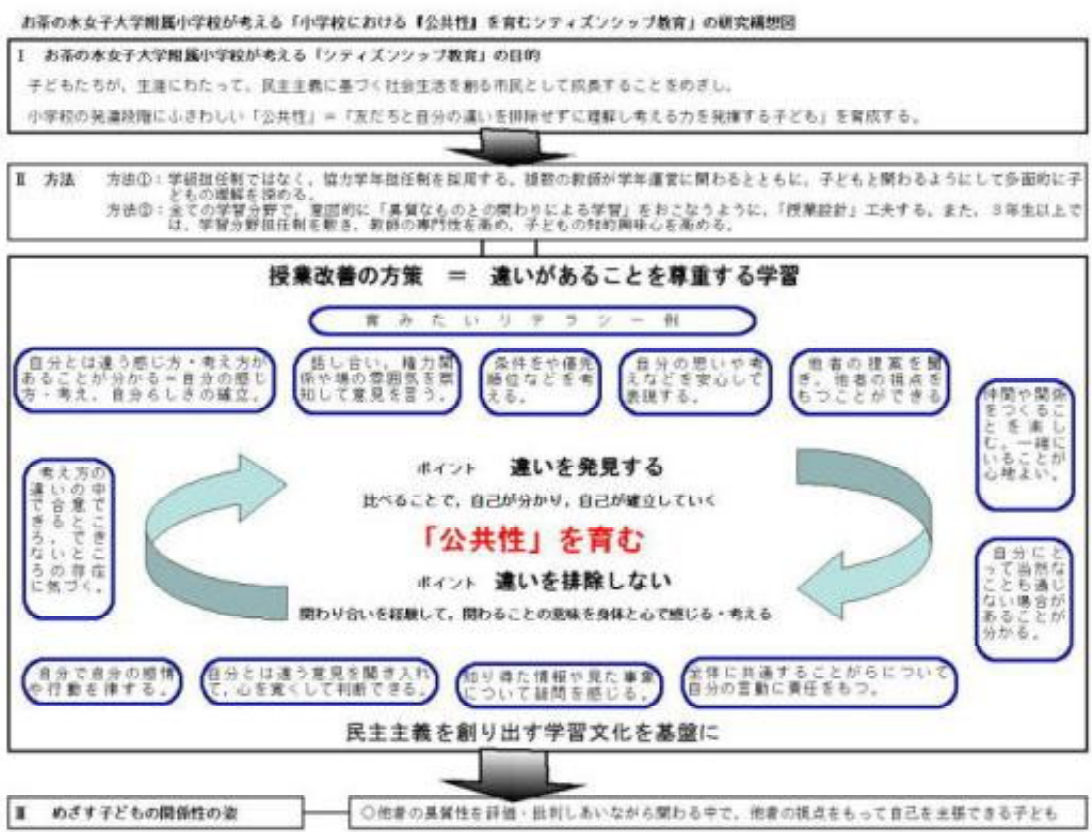
今回(H20~H22)は、特に「公共性」のところに焦点を当てて、小学校教育で育成できることは何か、全教科(学習分野)で内容・方法を開発する。その際、授業改善を基盤として研究を進める。

研究の動機は児童の実態や、子



どもを取り巻く現状社会の文化や価値のおき方、学校教育が担うべきこと、教師たち自身が創る教育課程のあり方、などへの問題意識である。一方で、近年のシティズンシップ教育の潮流の中で、本校の教育課程の特色を明確にしていく必要がある。シティズンシップ教育とは、広く、学校教育と社会教育の境界を越えて多様な可能性をもつ研究領域である。国内外の先進的な取り組みを参考にしつつ、本校の開発で担うべきことを探った結果、本校では、学習分野（教科）の授業において「公共性」を高め「公共性リテラシー」を育てる、という立場をとる。

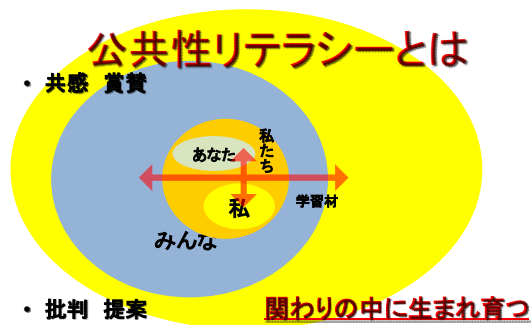
これからの世界・日本を担う子ども達（将来の市民）には、自分や身の回りの人や社会に愛着をもち、もつがゆえに公（パブリック）を良くしたいと考え行動することが求められる。自分の属する社会を理解し、その社会への問題関心をもつだけでなく、自分の役割を理解して社会を育てることも必要である。人は社会をつくり、そして社会によって育てられる。そのような市民として身につけるべき総体の中で、特に、小学校の授業場面で育てたい資質能力を私たちは「公共性リテラシー」と名づけた。民主主義とは、よりよいものを絶えず求める過程である。「公共性リテラシー」を探究し、「公共性リテラシー」に発達段階はあるのだろうか、育成の手立て等、実践的に模索している。本校の「シティズンシップ教育」の現在は、学習における「公共性」を問い、「公共性リテラシー」を育成することである。



② 「公共性リテラシー」の育成

「公共性リテラシー」とは、民主主義を創り出す学習文化を、どの授業にも共通する教室の基盤としてかたちづくることを目指し、機能的リテラシーの政治性（自由と責任・葛藤・せめぎあいや折り合い・討論・参加・少数の不利益など、価値が複数であることをいかにのりこえるか）に注目した資質能力である。「公共性リテラシー」には、授業をつくる子ども同士や子どもと教師双方を視野に入れた、お互いの関係性を問い直す、という意味がある。

2年次は仮説として全学習分野で共通の「公共性リテラシー」を「共感・賞賛・批判・提案」の要素で考えた。そして各学習分野の特徴を活かして育む「公共性リテラシー」を探究し、『学習における「公共性」育成プラン』作成に着手した。



どの学習にも共通する「公共性リテラシー」の要素

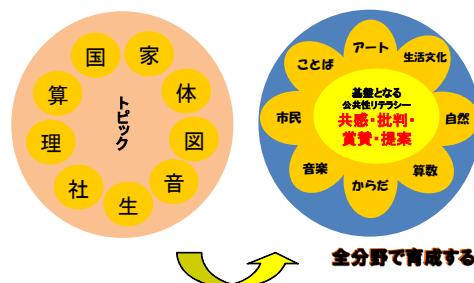
- 共感→いっしょにいる心地よさ、寛容さ、安心安定、そうだねと寄り添う気持ちの表出など
- 賞賛→相手の考えや作品の良さを見つける、比べる、語彙、少数派の長所を指摘する思考など
- 批判→異なる立場や表現を否定しない慎み、違いを楽しむ態度と思考、考えるための知識など
- 提案→こわす批判より創る提案にもっていく創造的思考、責任意識、意思決定、価値判断など

③ 『学習における「公共性」育成プラン』の作成

実践を基に『学習における「公共性」育成プラン』作成の取り組みを始めた。3年次完成をめざす。これは、本校の教育課程の中で、今回の開発内容を表すものである。それぞれの学習分野目標について、現行学習指導要領（教科）との比較検討をしながら、育てる「公共性リテラシー」を一覧にする。実際の学習活動例も記載する。まず第3学年第4学年を対象として作成した。中学年を的を当てた理由は、教科（学習分野）

担任制に移行する時期であり、異質なものととの出会いの機会が豊富に用意できること、発達的にも抽象的に考えたり客観的に見る目が芽生え、表現も素直で比較的柔らかく伸びる時期であること、前回の「接続期研究」で研究の谷間になっていた点が挙げられる。『学習における「公共性」育成プラン』を作成する試みは、教師それぞれが児童の学びの姿を「公共性」の視点でていねいに見ることや見直すことにつながり、同じ分野のみならず異なる分野の教師どうしの対話を生み出している。

公共性リテラシーの探究と育成



(2) 研究の経過

第1年次	(1) 「公共性」を育む「シティズンシップ教育」について定義する。 (2) 「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の視点から学習内容、リテラ
------	--

	<p>シーなどを授業研究を通して考察する。</p> <p>(3) 授業研究は、2年（1回）、3年（2回）、4年生（2回）に重点を置く。ほかに1年（1回）、5年（1回）、6年（1回）</p> <p>(4) 運営指導委員会は授業研究会と同日に行い、学習理論や授業の実際について指導を受ける。</p> <p>(5) 教育実際指導研究会において初年度の発表をおこなう。（平成21年2月開催）</p>
第2年次	<p>(1) 『小学校学習指導要領』に規定された既存教科の目標や内容と、本校の「ことば」「市民」などの学習分野の関連を示すために、本校版『学習における「公共性」育成プラン』作成に着手する。2年次はまず中学年に焦点を当てて作成する。</p> <p>(2) その際、授業研究と省察を通して、実践に裏付けられた「公共性リテラシー」を各学習分野ごとに考察する。</p> <p>(3) 「公共性リテラシー」の実践的定義をする。</p> <p>(4) 授業研究は一年次から継続した3・4・5年生に重点を置くが、他学年も含み全学習分野で行う。実際には9回実施。</p> <p>(5) 上記(1)～(4)の実践・研究を通して小学校教育で行う「公共性」を育む「シティズンシップ教育」のあり方や、校内研究の推進方法の工夫を明らかにする。具体的には授業研究＋実践記録＋省察のプロセスを共有する。</p> <p>(6) 運営指導委員会は授業研究会と同日に行うとともにメール会議も併用し、学習理論・授業の実際・評価について指導を受ける。</p> <p>(6) 第72回教育実際指導研究会において二年次の発表を行う。（平成22年2月開催）</p>
第3年次	<p>(1) 2年次までの基礎研究を基に作成した本校版『学習における「公共性」育成プラン』を生かして、全学習分野において「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の教育課程を実施する。</p> <p>(2) 『学習における「公共性」育成プラン』に基づく教育課程全体編成を評価する。その際、全学習分野共通に育成する「公共性リテラシー」と、各学習分野特有で育成できるものを整理して提言する。</p> <p>(3) 「公共性リテラシー」を育成する学習分野の目標、内容、取り扱い上の留意点などについて、他校の参考に資するよう配慮して提言する。</p> <p>(4) 授業研究は全学習分野で行う。学習分野研究と評価に役立つよう実情に合わせて実施する。</p> <p>(5) 上記(1)～(4)の実践・研究を通して小学校教育で行う「公共性」を育む「シティズンシップ教育」のあり方や、持続可能な校内研究の推進プラン（授業研究と実践記録と省察）の意義や可能性について提言する。</p> <p>(6) 協力学年担任制、学習分野担任制のあり方を「公共性リテラシー」育成の観点から評価し提言する。</p> <p>(7) 運営指導委員会は授業研究会と同日に行うとともにメール会議も併用し、学習理論・授業の実際・評価・校内研究などについて指導を受ける。</p> <p>(8) 教育実際指導研究会において三年次の発表を行う。（平成23年2月開催予</p>

定)

(3) 評価に関する取り組み

	評価方法等
第1年次	<p>(1)子ども達に向けた調査</p> <p>ア 公共性に関わる意識調査（相互独立的－相互協調的自己観尺度）を2学期に行い、子ども達の実態を把握（第3・4・5・6学年）</p> <p>イ お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」で作成した学力調査を用いて、国語（学習指導要領準拠の問題、聞く力）、算数（アチーブメントテスト、パフォーマンス・アセスメント）の学習調査を2学期から3学期にかけて行った。対象学年は3年生</p> <p>(2)保護者に向けた調査</p> <p>ア 本校における子どもの関わり方（自由記述）や、学習分野の取り組みの受け止め方について意識調査を行った（第2・5学年の3学期）。</p> <p>(3)研究に対する評価</p> <p>ア教育社会学，臨床心理学，政治学などの立場から助言を得て、「公共性」を育む「シティズンシップ教育」への示唆を，運営指導委員から戴いた。その内容は教育基本法第14条政治的教養の規定にある通り「政治的リテラシー」を核にして学習分野を再編成するべきとのことである。</p> <p>イ 21世紀COEプログラムとの連携は，大学の状況から現在は難しいことが分かった。そこで，学力調査の結果について他地域データとの比較だけを行うことにした。</p> <p>ウ 公開授業および研究協議会，運営指導委員会を通して外部評価を行った。</p>
第2年次	<p>(1)子どもの学びの状況評価</p> <p>ア 各学習分野の授業研究（年間8回）から「公共性」に関わる学びの姿を省察・分析し、育てたい「公共性リテラシー」を明らかにする。</p> <p>イ 「公共性」に関わる認識については日常の学習指導を大切にしノートや子どもの言動から把握する。1年次に実施した「相互独立的－相互協調的自己観尺度」については、（原案作成者）大学の先生の助言により、短期間に変様が現れない性質の尺度であることから、比較検討のためには2年次より3年次の調査実施が有効と判断し、3年次に実施することとした。</p> <p>ウ お茶の水女子大学が21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」で作成した学力調査について対象学年は3・6年（6月）を想定していたが、6年生は「全国学力・学習状況調査」の実施と重なった。3年生は3年次の4月に行い、1年次結果との比較を行うこととする。</p> <p>(2)保護者や外部研究者・実践者からの評価</p>

	<p>ア 本校における子どもの関わり方（自由記述）や、学習分野の取り組みの受け止め方について意識調査を行う（11月に2・5年生対象で実施）</p> <p>イ 授業研究会には積極的に外部からの参加者を招待する。授業後の話し合いの後、参加者には評価を記述して戴き、研究評価に生かした。</p> <p>(3)研究に対する評価</p> <p>ア 各学習分野の『学習における「公共性」育成プラン』の作成について、運営指導委員に、途中経過を学期ごとに報告し、研究評価を受けた。</p> <p>イ 公開研究会および運営指導委員会を通して外部評価を受けた。</p>
<p>第3年次</p>	<p>(1)子どもの学びの状況評価</p> <p>ア 「公共性」に関わる意識調査（相互独立的－相互協調的自己観尺度）を行い、子どもの意識・態度・認識の変容について一年次の実態の比較を行う。対象学年は、3・4・5・6年生を想定する（6月）。</p> <p>ウ お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」で作成した学力調査を用いて、国語（学習指導要領準拠の問題、聞く力）、算数（アチーブメントテスト、パフォーマンス・アセスメント）の学習調査を行う。特に、聞く力や、パフォーマンス・アセスメント（概念的知識、手続き的知識、推論とストラテジー、コミュニケーション）では、思考力やコミュニケーション力などについても調査する。対象学年は3・6年（6月）を想定する。ただし、6年生は「全国学力・学習状況調査」の実施校に指定されたので併用する可能性がある。</p> <p>(2)保護者や外部研究者・実践者からの評価</p> <p>ア 保護者に対しては本校における子どもの関わり方（自由記述）や、学習分野の取り組みの受け止め方について、意識調査を行う（11月、2・5年生）。</p> <p>イ 毎月の授業研究会の計画をHP上で紹介して積極的に外部からの参加者を招待する。授業後の話し合いの後、参加者には評価を記述して戴き研究評価に生かす。</p> <p>(3)3年間の研究全体に関する評価</p> <p>ア 『学習における「公共性」育成プラン』の実施と教育課程編成全体についての評価を、各学習分野部会の自己評価を基に、研究推進部が統括する。</p> <p>イ 公開研究会および運営指導委員会を通して、研究全体内容と方法について、外部評価の総括を行う。</p>

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

- ① 児童への効果 以下に、例として2つの学習分野の具体的な子どもの姿を挙げる
 <ことばの学習から>

6年生パネルディスカッションの学習ノートより

・私はこの学習の初め、批判をするというのは悪いものだと思います。ですが今回は批判することが「とてもいいこと」と言われたので練習のときは批判しか言ってません。けっこう楽しくて自分でもビックリでした。私は、批判するという事は、その意見の味を良くするスパイスなんだなあと思いました。(K子)

・参加者からの質問がきついと言い返すのがむずかしい。思いもよらない質問をされてびっくりした。でも堂々と言い返すのが大切だ。(T男)

・ぼくがパネルディスカッションをやったことは、自分の意見を聞いてもらおうとうれしいし、質問がくるといことは、みんなが理解してくれたということなのでおもしろいと思いました。討論者と聞いている人が自分の意見をはっきりと主張することがいいことだとぼくは思いました。(M男)

・いろいろ意見を言っていた人、言える人は、いろいろ知識があつてすごいと思った。(S子)

ノートの言葉からわかるのは、主張するには知識が必要であるという気づき、異なる視点の提示にたじろがない勇気と表現力、批判的思考によって考えが良くなるという実感である。これらは単元・授業を通して育成可能な「公共性リテラシー」を示している。「公共性リテラシー」育成には、対話力（自己と他者の対話、自己内での対話）、関係の中で使いながら磨く語彙力が欠かせない。

<市民の学習から>

これからの社会を創造する子どもに培う中心的な「公共性リテラシー」は、以下の3点である。

(1) 社会的価値判断力 (2) 意思決定力 (3) 「社会を見る3つの目」

○社会的価値判断力

社会的価値判断力とは、社会的な事象に対して「良い・悪い」「すべきである、すべきでない」と価値づけたり、評価したりする判断のことだ。例えば「水道水よりミネラルウォーターを飲む人が増え続けている。良いのか」という問題に対して「良い」「仕方ない」「ダメ」と判断は分かれる。社会的価値判断をするためには、事実の認識だけでなく、多面的に社会的事象を見る力や、問いをもつ力、批判的に考察する力などが必要である。子どもたちは、自他の価値観の違いを発見し、それらを相互に吟味しあうことで、価値判断力は磨かれる。

○意思決定力

意思決定力とは、価値判断にもとづいて目的実現のために「何をすべきか」「どのような解決策がより望ましいか」と合理的な策を選択・決定することだ。例えば、より多くの都民が水道水を利用するには、「さらに美味しく」「安全性を高める」などの策から選択したり優先順位をつけたりすることになる。具体的な情報を収集して社会認識を深める中で、自分なりに考え、さらに他者から賞賛や反論を得ることを通して、最終的な自分の考えを決定していく過程が、市民で育てる「公共性」といえる。

○「社会を見る3つの目」(今年度から、イ、ウを変更した)

「社会を見る3つの目」は、民主主義社会の認識の仕方として根幹となるリテラシーである。

ア 社会には、一個人の工夫や努力では、できることと、できないことがあること。

イ 自分の利益と、他者やみんなの利益は、必ずしも一致しないこと。

ウ だから、世の中には、広い視野から社会を調整するしくみが必要であるとともに、それらの仕組みに対して関心をもち、自ら働きかけようとする意識をもつことが必要であること。

広い視野から社会を調整する仕組みの必要性を感じさせ、ある決定の実行に伴う人々の不利益を最小限にする大切さを考えられるような、葛藤を感じる①タイプの社会的事象に出あわせる必要がある。

② 教師への効果

<授業研究会後にウエイトをおく省察スタイル>

授業者は、A4の1枚学習指導案に授業のねらいや「公共性」に関する考えを簡潔にまとめる。参観者は付箋紙をもって、①子どもの学び、②教師の関わり、③「公共性リテラシー」に関すること、④その他をメモする。授業後の話し合いで、付箋紙をKJ法で論点分類整理して報告する。「私が今日学んだこと（ふり返し）」を短く書いて研究推進部に提出する。研究推進部では、1週間以内にまとめて「ふり返りのふり返し」を書き加え、全体会で配布した。その後、実践記録を書いて読み合った。

これらの一連の省察スタイルによって同僚のもの見方、自分になかった視点を発見したり、「公共性」に限らず、教育に対する考え（思想）を共感的批判的に深めることができた。深めるというのは何か明確になるだけでなく悩みが増えることも多い。新たな課題のタネが見つかるのが、授業研の適切な姿だと考えられた。

（11月の算数の授業研究会後の教師の「ひと言一覧表」より抜粋）

A教諭：何でも言えて、子どものつぶやきもよく聞こえてくる教室空間。子どもの発言が課題解決のための手がかりになっていくといいな。

B教諭：もくもくと書く子ども、なんでもかんでも口に出す子ども、なにがどうなっているか分からない子ども。

皆が同じ土台にあるための授業形態はひとつではない（固定されてはいない）。自分の授業もよく考えたい

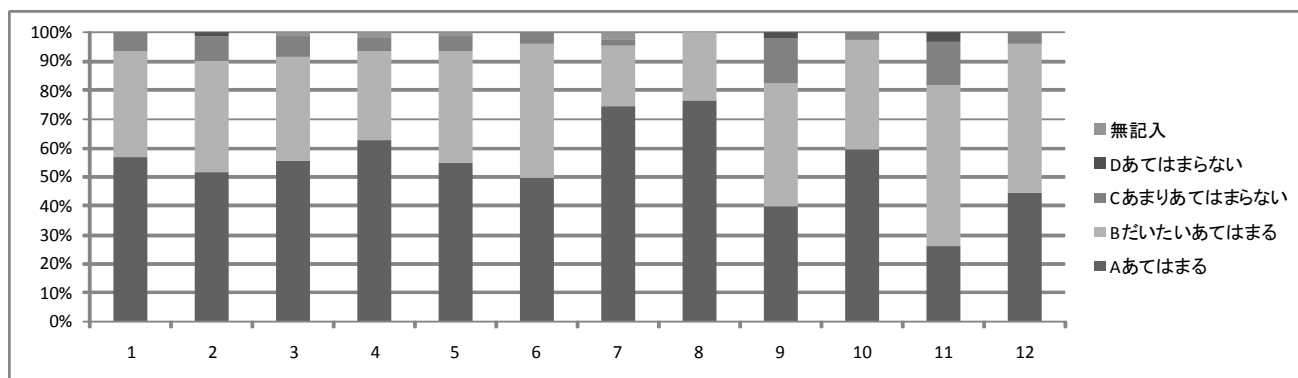
C教諭：「公共性」を考えるといかに子ども対子どもにしていくかということが、我に課せられたことだと再確認

D教諭：子どもが話すー聞く、という学びの関係がクリアな空間の中で教師に支えられながら進行していた。

違いを出し話し合う前に、条件を共通理解して始めることを自分の授業でも意識したい。

③ 保護者への効果

教育活動に関するアンケートを11月に2年生と5年生保護者対象に行った（回収率は約80%）。集計結果（下表）から「賛辞」が高いのは「7 研究活動を適切に行い、研究校としての使命を果たしている」「8 研究開発学校として特色ある教育活動を各学習分野で工夫している」。反面「要望」が高いのは、「11 学校での子どもの様子がよくわかる」「9 学校行事に保護者が参加しやすい」の項目である。次年度への改善の視点としたい。



学校等の概要

1 学校名、校長名

オチャノミズジョシダイガクフゾクショウガッコウ
お茶の水女子大学附属小学校
校長 菅本晶夫

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 東京都 文京区 大塚 2-1-1
電話番号 03 (5978) 5875 (教員室)
03 (5978) 5873 (事務室)
ファクシミリ番号 03 (5978) 5872

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

平成 22 年 1 月 1 日現在

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
119	3	120	3	118	3	128	4	132	4	130	4	747	21

4 教職員数

平成 22 年 1 月 1 日現在

() 内は外数

校長	副校長	教諭	養護教諭	栄養教諭	非常勤 講師	実験助 手	ALT	スクールカ ンセラー	事務職員	司書	計
1	1	26 主幹 1	1	1	(9)	0	0	(1)	(3)	(1)	30 (14)

